

わくわく子育て親育ち……………目次

はじめに

I しつけと教育

生活に「節」を入れる…………… 8
子供がやりたくなる声かけ…………… 12
お手伝いは遊びのように…………… 18
連帯感を育てる他者とのかわり…………… 23
しつけと親の覚悟…………… 27
絆を強める兄弟ゲンカ…………… 33
朗らかな言葉選び…………… 39
心配から見守りの育児へ…………… 44

II 子育て親育ち

手本は大自然の子育て…………… 50
個性を伸ばす…………… 56
わが子の中の自分…………… 62
親の共感力と忍耐力…………… 67
親へのメッセージ…………… 72
心の声に耳を傾ける…………… 77
子供の努力を認める…………… 83
親と子の約束…………… 87
親子の不思議なつながり…………… 92
今しかできない交流を…………… 97
子供の眼…………… 103
親の思いを知る…………… 108

III 家庭環境と夫婦の役割

夫婦が出発点……………	116
名前に込めた願い……………	121
見えない家族との交流……………	126
父親と母親の役割……………	131
信頼で築く学校との関係……………	137
すべてを包み込むスキンシップ……………	143
感謝の心は夫婦から……………	147
自信を培う成功体験……………	153
両親はわが子のモデル……………	158
やがて来る巣立ちの日に……………	163

装丁・本文設計 山口真理子

はじめに

近年、子供を取り巻く生活環境は大きく変わりつつあります。例えば、核家族化や少子化により、身近に子育て経験者や相談相手がないことで、子供とのかかわり方が分からずに悩む母親が増えています。

中には一人で思い悩み、孤立感を募らせた母親が情緒不安定になるといったケースもあり、子供の虐待に繋がるなど、大きな社会問題となっています。

一方、兄弟や近隣の友達と、集団で遊ぶ機会が減った子供たちには、テレビゲームやインターネット等の室内遊びが増える傾向があります。また、共働き家庭の増加で、子供が親と一緒に過ごす時間も減り、家族と一緒に夕食をとる機会は週に二、三回という家庭が最も多くなっているとの調査結果もあります。

しかし、それほど社会状況が変わろうとも、家庭が子供の生活基盤であることに疑う余地はありません。特に幼児期から学童期にかけての子供は、まだ行動範囲が狭く、

はじめに

他人との接触も少ないので、生活のルールや周囲とのコミュニケーション等、人格形成の基礎は、ほとんど家庭で親を通して学びます。この時、両親が不仲だったり、意見が合わない等があると、子供は不安を感じてしまうので、親はいつでも子供たちが安心して楽しく学べるように、家庭環境を整えることが大切です。

本書は、平成二十八年から令和二年まで月刊誌『新世』に掲載していた、若いお父さんお母さん向けの育児アドバイス「わくわく子育て親育ち」から、三十編を選出したものです。書籍化にあたり、十二名の倫理研究所研究員がさらに加筆修正にあたりました。

第一章では、しつけを含む「家庭教育」のポイントについて、第二章では、子育てを通しての「親の学び」について、第三章では、家庭における父親と母親の役割について、それぞれエピソードを交えながら、分かりやすく解説しています。

纯粹倫理の育児のポイントは、親は子供を必要以上に心配せずに信じること。そして、もし問題が起こった時は、親である自分に向けた大自然からのメッセージと受け

止めて生活改善をすること、の二点です。

ここに挙げた三十編もすべてこのポイントに則って書かれたもので、倫理研究所の長年の研究による二つの法則「子女名優（子供は親の心境や行動を鏡のように映し出す）」と「捨て育て（親は過剰な心配や不安を捨て、子供の伸びようとする力を助ける）」に基づくものです。

哲学者、ジョセフ・ジュベールの「子供には批評よりも手本が必要」の言葉のように、親はいつでも自身の言動をもって、子供に手本を示していきたいものです。

本書が、子育てに対する不安やストレスを軽減し、ご両親が子育ての喜びや生きがいを取り戻して、和やかなご家庭を築かれる一助となれば幸いです。

令和三年九月

一般社団法人 倫理研究所